

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 岐阜県立恵那高等学校 学校運営協議会（第2回）
- 2 開催日時 令和3年12月2日（木） 10:00～12:00
- 3 開催場所 岐阜県立恵那高等学校会議室
- 4 参加者

会長	伊藤 勝彦	恵那市議会議員	元恵那東中学校長
副会長	鎌田 基予子	元恵那市教育委員	100周年記念事業副実行委員長
委員	秋山 浩司	東海神栄電子工業代表取締役社長	
	阿部 伸一郎	同窓会長	セントラル建設（株）社長
	新井 麻美	恵那くらしビジネスサポートセンター	
	大畑 雅幸	恵那市教育長	
	小関 はるか	恵那市商工課商業振興主任	
	高垣 浩	PTA会長	
	蜂谷 明子	蜂谷医院医師（ご欠席）	
	本多 京子	恵那高校卒業生	
学校側	岩木 隆義	校長	
	古橋 良成	事務部長	
	田中 誠二	教頭	
	足立 幸司	教務主任	
	磯部 徹	生徒指導主事	
	林 正幹	進路指導主事	
	石原 泰三	保健主事	
	佐々木 俊哉	探究理数科部長	

5 会議の概要（協議事項）

(1) 令和3年度学校評価アンケート結果について

昨年までは、各クラス生徒・保護者10組を担当が任意で選び、保護者懇談会で用紙を配付して記入後に回収していた。今年度は、全ての生徒と保護者に対して、保護者懇談期間中に主にWeb調査で実施した。そのため回収率及び肯定的回答率は概ね低下している。

意見1：アンケート結果をどのように活用するのか。また、学校間比較はできるのか。

⇒次年度に向けて活用する。学校独自項目以外の質問は他校と共通だが、実施母体や方法が異なるので、単純に比較はできない。

意見2：アンケート項目によっては、アンケート結果を令和5年までの数値目標として設定することもできるのではないかと。

生徒と保護者の望みを把握する上で肯定的な回答率低下には注意を要する。特に在校生は広告塔であり、今後の入学生に影響する。という意見から、学校の魅力を中学生にアピールすることに係わる意見が多く出された。

(2) スクール・ポリシーの策定について

意見1：用いている言葉が難しい。わかり易い言葉を用いた方がよい。

意見2：長々として何を言っているのかわからないものもある。一文一意であるべきである。形容詞や副詞も排除して写実的である方がよい。

意見3：易しく具体的にしてはどうか。

意見4：言葉を聞いて、本校のミッションは何かをイメージできることが大切である。どの学校も同じようなものになってしまうように、オリジナルをつくる必要がある。

意見5：企業理念などは、暗記できる易しい文章である。氷山に例えると、沈んでいる9割の哲学があるのだが、浮いて見えているのは1割であって、そこはすっきりした方がよい。

意見6：「主体的に生きる生徒」のように一つの言葉で伝えてはどうか。

意見7：簡潔で分かりやすいキーセンテンスでまとめるとよい。生徒が輝いている時の象徴は城陵祭であり、その輝きがわかる「パワー、力、逞しさ、泥臭さ」があるとよい。

議長より、本校らしいスクール・ポリシーを検討するとともに、端的にそれを表すよう図版化した資料を付けて補足するという方向性が示された。

(3) 県立学校体育施設開放について

意見1：高校生が最優先で使用すべきで、種目間のトラブルなど、受付窓口は大変になることが予想される。

体育施設を開放するのは難しいという結論に至った。

6 会議のまとめ

スクール・ポリシーについては、本校らしさを再検討し、端的で明快、平易に表現する方向でまとまった。さらに、哲学的な背景やイメージを膨らませるために図版を作成することになった。